

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第30週 (7/24-7/30) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		30週	29週	28週	27週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	4	5
	インフルエンザ*	28	28	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	7/24-7/30	7/17-7/23	7/10-7/16	7/3-7/9	7/17-7/23
			30週	29週	28週	27週	29週
小児科	RSウイルス感染症		7	7	0	1	69
	咽頭結膜熱	○	14	13	8	15	141
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		30	24	59	63	324
	感染性胃腸炎		77	69	106	102	380
	水痘		3	3	8	5	37
	手足口病	○★★	152	145	137	134	705
	伝染性紅斑		0	0	0	0	7
	突発性発しん		11	16	16	15	71
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	○★★	158	112	136	85	412
	流行性耳下腺炎		4	3	6	1	24
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	0	0	26
眼科	急性出血性結膜炎		0	1	0	0	2
	流行性角結膜炎		2	2	1	6	20
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	1	6
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	画像診断	腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	女性	40歳代	IGRA検査		男性	30歳代	
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	40歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	女性	80歳代	病原体等の検出等				
侵襲性肺炎球菌感染症	男性	70歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第30週は、結核4件(127)、腸管出血性大腸菌感染症2件(7)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(12)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(21)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第30週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

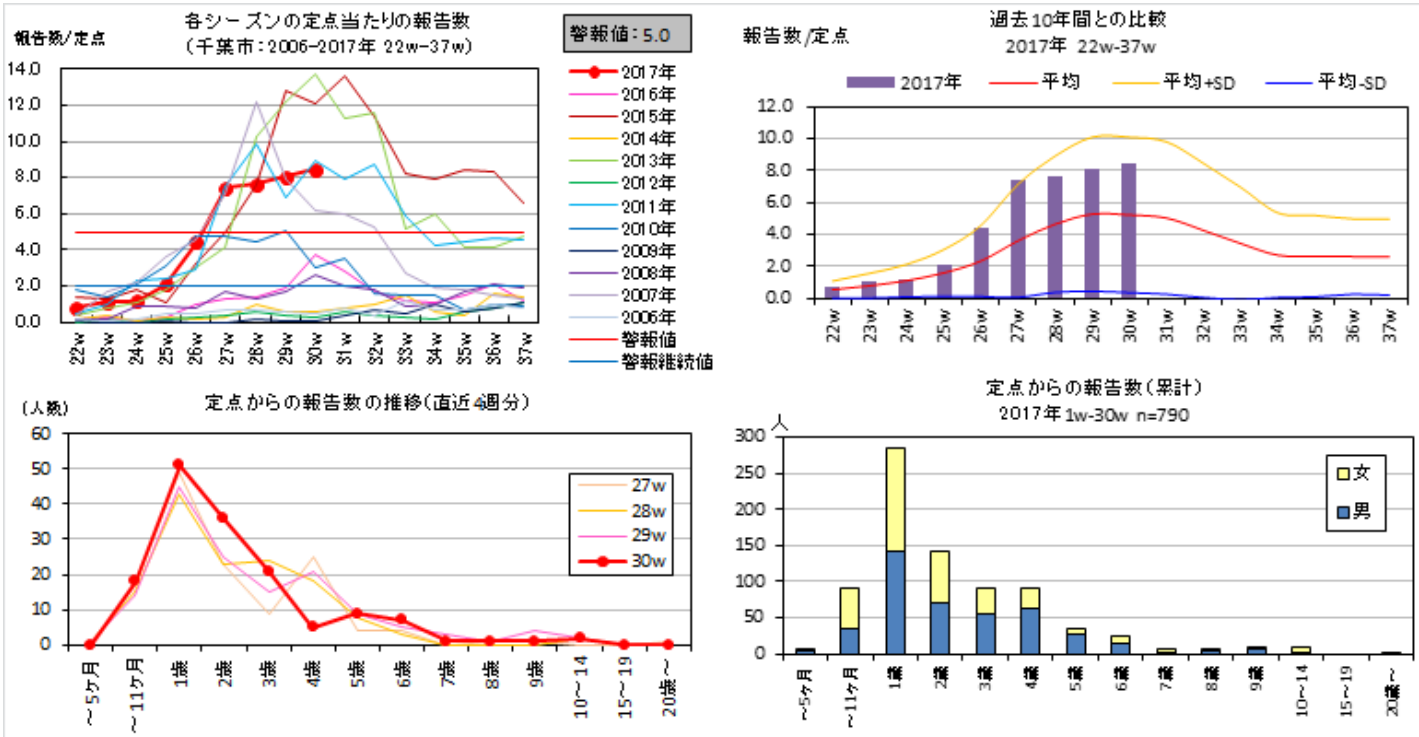
<手足口病> 前週より増加し8.44となり過去10年の同時期と比べると多め。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。

<ヘルパンギーナ> 前週より増加し8.78となった。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

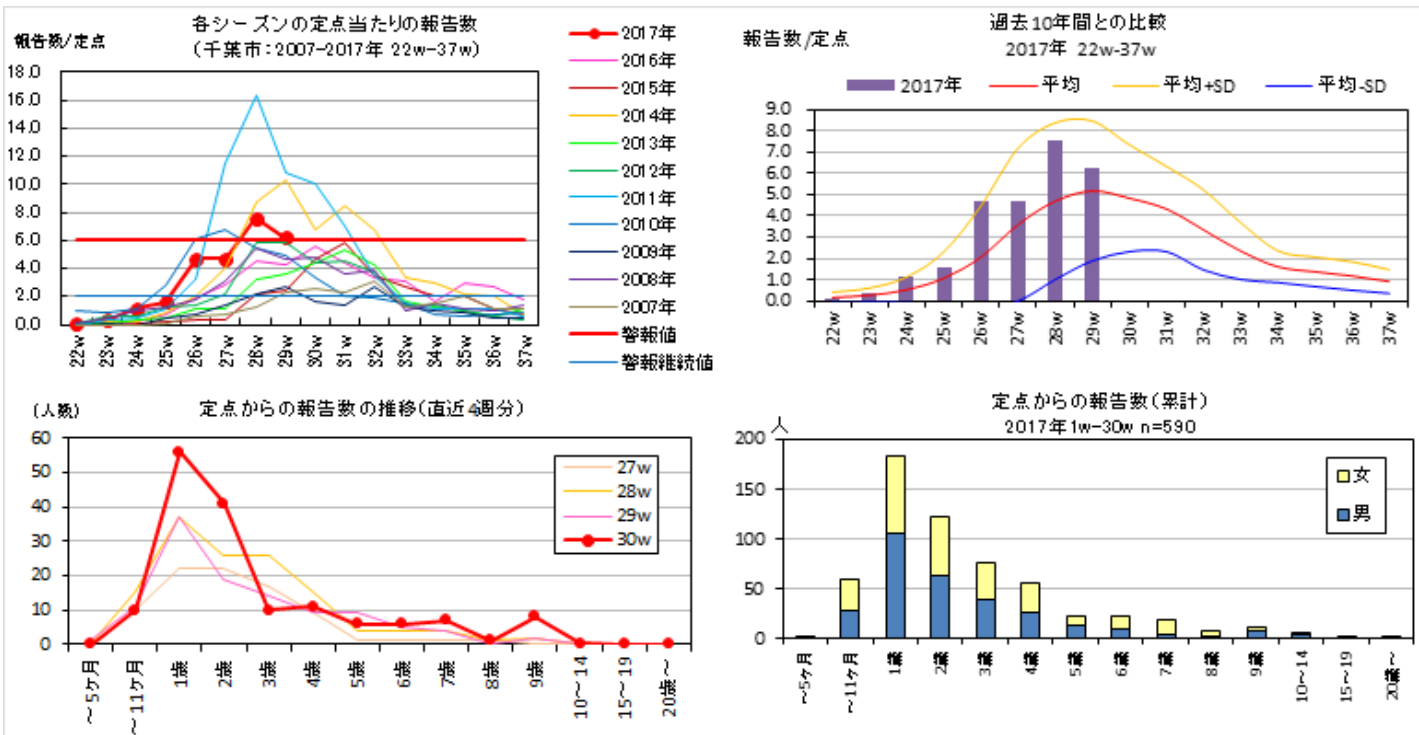
＜手足口病＞

全国レベルの第29週は、過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福井県、大分県、三重県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の第30週は前週より増加し8.44となりました。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(11.0/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第30週までの累積報告数(n=790)によると、性別では男性が53.4%(422名)、女性が46.6%(368名)で、年齢階級別では1歳(36.1%:285名)、2歳(18.1%:143名)、4歳(11.5%:91名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの2017年第29週は過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では山口県、佐賀県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第30週は前週より増加し8.78となりました。流行発生警報開始基準値(6.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(21.58/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区(14.0/定点)及び緑区(11.3/定点)で流行発生警報開始基準値を上回っています。2017年第1週から第30週までの累積報告数(n=590)によると、性別では男性が51.7%(305名)、女性が48.3%(285名)で、年齢階級別では1歳(31.0%:183名)、2歳(20.8%:123名)、3歳(13.1%:77名)の順に多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの2017年第29週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では北海道、沖縄県、鹿児島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の2017年第30週は前週より増加し0.78となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区(1.33/定点)で最多で、同区の2歳で発生報告がありました。2017年第1週から第30週までの累積報告数(n=152)によると、性別では男性が66.4%(101名)、女性が33.6%(51名)で、年齢階級別では1歳(29.6%:45名)、3歳(14.5%:22名)、2歳及び4歳(共に12.5%:19名)の順に多くなっています。

